

還暦を迎えた駒大高校

(開校六十周年記念事業推進のための募金のお願い)



題字・故 上野慧賢先生

発行所
駒澤大学高等学校

同窓会
正会員数 23,862名

東京都世田谷区上用賀1丁目

〒158-8577 TEL.3700-6131(代)

FAX.3708-7291

振替口座 0018-6-61881

http://www.komazawa.net

E-mail:dosokai@komazawa.net

同窓会会長 田上太秀



我が母校は昭和二十三年開校されて、来年六十周年を迎え、卒業された同窓生は二万数千人に達しました。開校した当初の数年は各学年一クラスしかない状態でしたが、渋谷に移転して飛躍的に生徒数が増えましたが、校舎も運動場も狭く、窮屈な環境でした。再び駒澤大学構内の新築校舎に移り、十五クラスの学年もある学校に発展しました。さらに用賀に移転後は教育設備が格段に充実し、学力も上り、文化・スポーツでも優れた成績を収めています。

この母校の発展はひとえに同窓生諸兄姉のご支援が陰に陽にあつたからであります。

いま、母校は一層の発展を期して六十周年諸事業遂行のために募金活動をされます。同窓会はこの趣旨に賛同し四百万円の寄付を決めました。諸兄姉におかれては母校の発展を願うお気持ちを表す意味で、金額の多少は問題でなく、浄財をお寄せくださいますことを役員を代表してお願い申し上げます。皆様のご健勝とますますのご活躍を祈念して止みません。

(四期)

校長 浦 敏之



同窓生の皆様には常日頃より大変お世話になっております。皆様が卒業されました本校も早いもので平成二十年には開校六十周年を迎えることとなりました。人間で言えば社会の一線から身を引く年ですが、わが校はますます元気に社会的責任を果たしてゆくための一里塚に過ぎません。昨今の社会状況を見ると、人々の心の荒廃を感じます。ますますわが校の宗教を中心にした教育がその責任を果たさねばなりません。卒業生の皆様の応援をお願いします。

はじめに

昭和二十三年駒澤大学内で呱々の声を上げて以来、先輩諸氏のご努力により、幾多の人材を世に送ってまいりました。諸般の事情から校地を駒沢・渋谷・駒沢・そして昭和四十一年に用賀へと移転しました。用賀の地に移ってから四十年を超える月日が流れました。開校以来、宗門立の学校として、駒澤大学の付属校として、人を大切にする教育が受け入れられ、首都圏を中心に多くの方々に支えられながら教育活動を続けてまいりました。本校も少子化の影響を受け、大変苦しい思いもしつつも、社会で活躍する卒業生の姿を見て受験生が集まってくれています。

この近年の進路状況について見てみますと、毎年、70%をこえる生徒が駒澤大学に進学し活躍しています。他大学

に進む生徒も徐々に増えて、合格大学が多岐にわたっています。最近の傾向として、指定校推薦できる大学・短大が増えました。生徒個人の将来への願いをかなえるべく、さまざまな形で進路について応援する体制が効を奏して、様々な大学・短大・専門学校に進学しています。

校友会の各部はそれぞれ活発に活動しています。どの部においてもかなりの成果を挙げています。十九年度の関東大会には男子ソフトテニス部・剣道部・陸上競技部の常連に加え、女子バスケットボール部が初めて出場しました。ソフトテニス部は関東大会で個人が初優勝しました。ソフトテニス部はインターハイにも団体・個人の両方で出場しました。また、男女バレーボール部は関東私学・全国私学大会に出場しました。サッカー部は全国大会を目指して練習中です。吹奏楽部は都予選大会金賞を受賞し、全国大会出場を目指しています。野球部は夏の東京都大会でベスト十六に入り再度の甲子園出場をめざしがんばっています。

平成二十年に開校六十周年を迎えますので、これを期に、教育環境を整え、二十一世紀を担う若者を育成するにふさわしい学習環境を整えるべく整備事業進行中です。平成十七年度より、四十余年を経過し老朽化した校舎のリニューアルを行なっております。また、教室の余裕がない状態が続いておりましたが、特別教室の移転により、普通教室を増設しました。年度ごとの工事概要を次に記します。

年度ごとの整備報告

平成十七年度には耐震工事と修道館のアスベスト除去工事、図書室は新館三階へ、音楽室は体育館一階の和室のあとへ移転しました。普通教室

三部屋増と視聴覚教室一部屋増、小体育館の床の張替え、女子の更衣室と進路学習室にプレハブ二階建て校舎の増設をしました。

平成十八年度には長年の懸案でありましたトイレのリニューアルを行ないました。これまで西側と東側に男女別がありましたがトイレの利便性を高め、生徒の健康管理に配慮し、各トイレを男子用と女子用として半分ずつ利用することとしました。環境に配慮し、今までは下水に放流していた小体育館地下の湧水をトイレの洗浄水として利用しました。新体育館の床再塗装工事も終わりました。

環境教育の実践場として長野県黒姫高原にあります柏原地区所有林の一部を「駒大高絆の森」として借りました。毎年、林間学校の記念樹を植えています。この場所は都会育ちの生徒たちが、森林に入ると緑の大切を実感し、生徒が代々つながりを実感できる所です。現在は主には林間学校時に、植林したり、伐採したり、下草刈り等自然環境教育実習のために利用しています。今後は卒業生や保護者・家族にも活用していただきたいと考えています。

平成十九年度は夏休み中に、校舎内の塗装と間仕切りのリニューアルを工事しました。夏期講習や部活動で校舎を使いながらの工事ですので今年度は三分の二ほどを実施し、残りは来年度に実施する予定です。校舎内の塗装を行った部分につきましては大変明るくなり、すがすがしい気持ちで学校生活を送ることができるようでしょう。

保護者の経済状況急変により就学困難になった生徒の学習支援をするため、本年度より経済的支援を目的とした奨学金制度を作りました。この新しい奨学金は授業料相当額を減免する制度で、「開校六十

周年記念奨学金」と称しております。

平成二十年の工事予定

平成二十年には体育教育の充実と部活動推進のため、また、近隣対策上ほこり等を抑えるためにグラウンドの人工芝化、および、校舎の未整備部分のリニューアル、および本館屋上の整備等も計画しております。

将来への課題としては校地拡張、校舎の全面改築等も長期計画の中では考えております。少子化の時代であり、学校経営環境は厳しい状況ではあります。経営の安定をはかるためには生徒数の確保を図ってまいらねばなりません。そのためには、学習環境を整えることが必要です。また、ソフト面ではよりよい教育の実践により、これまでに増して、社会に有為な人材を送り出すことが重要です。教職員一同、教育の質の向上に日々取り組んでいるところで

本校の将来を考えますと、開校六十周年記念事業として計画しました事業を実現し、学習環境を整え、将来に備えたいと思います。大変恐縮ではございますが、本校発展のために開校六十周年記念募金に皆様のお力添えをお願いいたします。本来でありますればお伺いし、お願いしなければならいと思いますが、田上同窓会長さんのご好意に甘えまして、同窓新報の紙面をお借りしてお願ひであります失礼の段お許しください。

すでにご寄付いただきました卒業生もたくさんいらっしゃいます。そのかたがたにはこのお願いの文章は、皆様のおかげで、ここまで環境整備ができましたことの間報告とさせていただきます。

(十三期B組)

目の前の六十周年 二つの六十周年に

向かって

副会長 宮田利徳



平成十八年度より副会長を
させて頂いております。田上

会長を始めと致しまして常任
幹事会のご推挙を戴き、役員

総会でご承認を戴きました。
それ以前は駒澤大学高等学校
同窓会の会計監査で先輩のご

指導を受けながら微々たる協
力しかできませんでした。が、
更なる責任の重さに心を引き

締めている所でございます。
三月八日の駒澤大学高等学

校第五十七回卒業式には同窓
会の代表として卒業生に大学
総長の次に祝辞をさせて頂

き、「年齢にふさわしい椅子
での立ち居振る舞い（立ち方
座り方）につくまして話をさ

せて戴きました。このこと一
つに関しましては歴代会長の
ご重責とご苦労が身にしみ

思いました。五二八名のご卒
業を心からお祝い申し上げま
す。また平成十九年度より新

しく同窓会ではこのように多
くの会員をお迎えできますこ
とをこの上なく頼もしく思っ

ております。これも母校の発
展があつての賜だと思つてお
ります。
(十五期H組)

開校六十周年記念事業募金募集要項 記

目標募金額 一億円

募金の使途 開校 60 周年記念事業（教育施設・環境整備第 4 期工事）

募集期間 平成 19 年 11 月より平成 21 年 3 月末日

募金額 一口 一万円

できるだけ多くご惠贈賜れば幸甚です。

所得税控除 本校法人は「特定公益増進法人」でありますので、所得税法上の所得控除を受け
ることができます。

ご賛同いただけます方は同封のはがきに必要事項を記入の上、投函して
ください。折り返し、必要書類をお届けさせていただきます。

ご照会先 駒澤大学高等学校事務局「澤口洋一・城 英彦」までお願いします。

〒158-8577 東京都世田谷区上用賀 1-17-1

電話 03-3700-6131 FAX 03-3707-5689

http://www.komazawa.net/

以上

駒澤大学高等学校開校六十周年記念事業募金委員会

特別顧問	駒澤大学	理 事 長	宮本 延雄	
特別顧問	駒澤大学	総 長	大谷 哲夫	
特別顧問	駒澤大学	学 長	池田練太郎	
特別顧問	駒澤大学	副 学 長	川本 勝	
特別顧問	駒澤大学	事 務 局 長	高橋 正弘	
委 員 長	駒澤大学高等学校	校 長	浦 敏之	
副委員長	駒澤大学高等学校	同窓会会長	田上 太秀	
	駒澤大学高等学校	施禮会会長	渡部 良彦	
	駒澤大学高等学校	一如会会長	鳥澤 俊寛	
委 員	教 頭	鈴木 貞雄	事務長	澤口 洋一
	同窓会副会長	眞田 治孝	副会長	濱田 好晃
	副会長	宮田 利徳	副会長	高木 恒一
	施禮会副会長	森 義法	副会長	石川 信一
	副会長	白鳥 正志		
	一如会副会長	野村 安久	副会長	南雲 安幸
	副会長	田代百合子		
幹 事	教 諭	樋渡 俊光	教 諭	小林 惣八
	係 長	城 英彦		

駒澤大学高等学校同窓会規則・改正

第 8 条 本会は下の役職者をおく。

- 1 名誉会長 1 名
- 2 特別顧問 1 名
- 3 顧 問 若干名
- 4 相 談 役 若干名
- 5 名誉役員 若干名

第 9 条

- 1 名誉会長並びに相談役は、会長経験者に常任幹事会が委嘱する。
- 2 名誉役員は、永年役員の任にあり、本会の発展に功労があつた者に常任幹事会が委嘱する。

第12条 名誉会長、相談役、名誉役員は、本会の運営に関与し、その円滑を測る。

付 則 本会則は平成 19 年 5 月 27 日より適用する。

平成 1 8 年度 駒澤大学高等学校同窓会収支計算書			
《収入の部》		(金額単位：円)	
項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
入会金収入	7,965,000	7,920,000	15,000×528名
年会費収入	1,562,000	1,686,000	2,000×528名 + 幹事会 1 名 ¥630,000 (205名)
寄付金	30,000	14,000	幹事会 3 名
雑収入	10,000	2,812	雑
収入小計	9,567,000	9,622,812	
前年度繰越金	11,768,807	11,768,807	
収入合計	21,335,807	21,391,619	
《支出の部》			
項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
事務費	500,000	205,605	パソコン導入力 振込手数料
通信費	200,000	112,468	電話使用料 切手代
会議費	1,000,000	811,661	役員会 役員会 常任幹事会
慶弔費	500,000	290,000	永年幹事会 幹事会 香典・弔花代
同窓新報発行費	8,500,000	2,793,513	41号印刷代+発送代 編集委員会
クラス会助成費	400,000	190,000	クラス会 11件 OB会8件
クラブ助成費	1,000,000	151,628	女子ソフトテニス部 部費
文化活動費	1,000,000	0	
予備費	1,000,000	0	
支出小計	14,100,000	4,554,875	
次年度繰越金	7,235,807	16,836,744 ※	
支出合計	21,335,807	21,391,619	
(※ 内訳) 三井住友銀行 桜新町支店 (普通) 11,816,526円			
三井住友銀行 桜新町支店 (定期) 0円			
三井住友銀行 桜新町支店(金庫) (普通) 173,338円			
城南信用金庫 用賀支店 (普通) 838,770円			
世田谷用賀郵便局 (振替) 2,588,110円			
世田谷用賀郵便局 (定期) 1,420,000円			
合計 16,836,744円			
平成 19 年 4 月 23 日			
平成 1 8 年度駒澤大学高等学校同窓会収支計算書について			
監査を行った結果、妥当且つ適正であることを証明します。			
会計監査 吉野 信行			

平成 1 9 年度

駒澤大学高等学校同窓会収支予算書

《収入の部》

項 目	前年度予算	本年度予算	備 考
入会金(15,000×)	7,965,000	8,880,000	(15,000×592名)
年会費	1,562,000	1,684,000	(2,000×592)+幹事会50名(250名)
寄付金	30,000	30,000	
雑収入	10,000	10,000	
前年度繰越金	11,768,807	16,836,744	
合 計	21,335,807	27,440,744	

《支出の部》

項 目	前年度予算	前年度決算	本年度予算	備 考
事 務 費	500,000	205,605	500,000	
通 信 費	200,000	112,468	200,000	
会 議 費	1,000,000	811,661	1,000,000	
慶 弔 費	500,000	290,000	500,000	
同窓新報発行費	8,500,000	2,793,513	8,500,000	
クラス会助成費	400,000	190,000	400,000	
クラブ助成費	1,000,000	151,628	1,000,000	
文化活動費	1,000,000	0	1,000,000	
創立60周年支援準備金	0	0	2,000,000	
予 備 費	1,000,000	0	1,000,000	
小 計	14,100,000	4,554,875	16,100,000	
次年度繰越金	7,235,807	16,836,744	11,340,744	
総 計	21,335,807	21,391,619	27,440,744	

恩師の肖像

退職に当って

教諭 小野 忠一



「オノチュウ」と校舎の二階から三階から時折生徒の声がかかるような学校生活を送ってきたこの頃ですが、昭和四十年四月から保健体育の教員として奉職した駒大高校を、平成十九年三月をもって停年退職となりました。四十二年間の長年間に渡り学校生活に終止符を打つ事になりました。在職中は、卒業生・教職員・在校生諸君の皆様方に支えられて、内外共に充実した長期間を大過なく、健康で過ごすことができました。皆様方の御厚情に心から感謝申し上げます。

奉職当初は担任とバスケットボール部の顧問を四年間担当しました。その後、野球部の監督が退任されたため、指導者がいなくなりました。そのため学校側から野球部の監督の要請がありました。昭和四十四年二月から、神谷部長先生の下で野球部に就任しました。何の先も見えない我武者らの取り組みでした。しかし、三年目に、昭和四十七年夏の東京都大会(甲子園予選)は、三、四、五、六回戦を突破して準決勝(ベスト四)まで進出した。その四年後(昭和五十二年)には、夏の西東京大会・準決勝で桜美林高校(甲子園大会優勝、全国制覇)と対戦し、延長十回まで戦って敗れている。さらにその四年後、昭和五十五年夏は、

西東京大会決勝戦まで進み、準優勝になっている。この時期まで十二年間が経過し、すでに高校野球の魅力にとりつかれてしまったように思われます。平成十一年春の甲子園全国選抜大会出場を経て、三十八年間野球部の活動に係ってきました。昭和五十年代の駒大高校の各部は、関東大会、全国大会、国体などの参加で素晴らしい成績を残し、伝統を築いて行つた。現在でも第八支部総合体育大会では、各種目の総合得点で男子の部は、四十年以上の連続優勝を継続中です。現在は、指導者も交替期に入ったり、男女共学に移行したりで、時代の流れもあり、公式戦での成績を残す事は、困難な状況になってきています。しかし、将来に向けては、部活動を通しての教育方法を研究する必要があるものと思ふ。昭和五十二年頃から野球部の専用グラウンドを厚木市の飯山に移動した。最初の頃は、野球部員の手でグラウンド整備をしていたが石塊だらけで充分な練習は、できなかった。小田急線本厚木駅下車し、その後バスで三〇分も時間のかかる場所であった。しかし、野球部父母会の協力によりブルトーザーを導入してのグラウンド整備ができるようになりました。又、OB吉田美津夫氏(二十八期卒)の御好意によりグラウンド内外野の全面の土の入れ換えを行って頂き素晴らしい練習場となった。三十年来、現在もこのグラウンドを使用している。野球部の先きの甲子園大会(選抜全国大会)出場以来、公式戦での上位進出がないのは寂しい限りである。最近、時代も変わったためか、男女共学が影響するの

一九九五年の春

教諭 稲益 邦雄



か、もう一步徹底できる教育でなければならぬ。駒大高校の教育は、目標に焦点を定めて、徹底できる教育にしたものです。

退任後も、今後の人生を全うするに当り、同窓生の皆様の御指導、御鞭撻頂きますようお願い申し上げます。今後の同窓会並びに駒大高校の益々の御発展を祈念し退任の御挨拶とします。

(保健体育科・昭和四十年四月〜平成十九年三月退職)

阪神大震災の時、痔の手術のため入院していた。ちょうど、その年よりわが校は共学になるので、それに合わせて入試のプログラムを書いている最中であつた。

三学期の始業式の日、朝から出血が少し気になっていた。家を早めに出て小田急の定期券を購入した。学校に出動したが痛みがひどくて椅子にも座れないくらいだった。恥ずかしくて病院に行くのをためらっていたが、この日はかりはどうにも我慢ができなくなり、急ではあつたが手術を決心した。和田教頭に許可をもらいすぐに帰ることにした。余談だが、明日から使わなくなる定期券の払い戻しを窓口で再三にわたって申し込んだが、払い戻しはできないの一点張り。腹が立ったの

を思い出す。

そんな訳で一月十七日早朝の大地震を病院のベッドの中で大きな揺れを感じた。九五年からの共学に合せて、入試プログラムを完成させたいと熱望していたので、入院費用が気になったが個室に入ることにした。誰にも邪魔されずに朝から晩までプログラムを書きつづっていた。プログラムが正しく動くかどうか早く試したい気持ちもあり、また仕事に気になって早く退院したいと申し出たが、術後の状態をみると指を肛門に入れたときはナイフで刺されたように痛かった。まだ二、三日は無理だと言われた。差額ベッド代のこともあるので退院を一週間延ばしてもらった。保険金が出ることになりかえってよかった。

その年は共学の最初の年であり、また、共学初めての担任でもあつた。入学式を終えて、教室に行き指定した席に座り、待っているように指示した。程無くして、四階まで行くと、遠くからワイワイガヤガヤと大きな声がかつてきた。静かであるはずの教室から大きな声がするクラスがあつた。何回も新入生を迎えているが考えられない。入学した日は、右も左もわからないのでおとなしくしているのが当たり前だと思つていた。近づくと、それは我が受け持つクラスであつた。

遠足の日である。生徒たちは着替えてバスに乗り込んでいた。点呼の時間になり、みんな揃っているだろうか心配で行ってみると、車中の雰囲気が違う。後ろのほうはガキ大将が陣取るものと相場が決まっているのだが、陣取っているのは女子であつた。男子は前のほうでおとなしく座っていた。これは、授業中も同じであつた。元気で活発な女子はよく勉強した。女子が

振り返りどころ

事務長 大内 勝蔵



本校に平成十一年四月着任以来、二期八年間事務長として楽しく仕事をさせていただけました。大過なく退職の日を迎えることが出来たのは、皆々様のご支援、ご協力のおかげと深く感謝申し上げます。

退職後はどうされるのかと、よく聞かれましたが、在職中に本校生徒から頂戴した若いエネルギーを基にちよつと長めに楽しく人生を過ごすべく振り返りを模索しているところです。

本校も歴史を重ねる来年は開校六十周年を迎えますが、これに向けてキャンパス整備も進み耐震補強工事、トイレ整備工事と着々と積み重ねられ、将来設計が立てられています。が、この間、同窓生の皆様には多大なご支援を頂きましたことに感謝申し上げます。

母校は心の拠り所といわれます。駒大高校の益々の発展と同窓会の更なるご発展を祈念してお別れの挨拶と致します。

(平成十一年四月
〜平成十九年三月退職)

平成19年度 役員

平成19年度

役員

会長

田上 太秀 (4期)

副会長

真田 治孝 (5期)

会務

高木 恒一 (16期)

庶務

原 正男 (1期)

会計

高木 正博 (15期)

妻倉 由明 (16期)

日吉 明廣 (19期)

大石 智子 (事務)

会計監査

渡辺 敬蔵 (24期)

名譽会長

吉野 信行 (28期)

相談役

大谷 康憲 (3期)

特別顧問

秋山 彰三 (1期)

顧問

鈴木 貞雄 (教頭)

常任幹事

市川道太郎 (1期)

菅原 信昭 (2期)

坂井 茂 (4期)

清水 俊一 (7期)

吉沢 道雄 (10期)

渡辺 幸一 (16期)

石渡 進 (17期)

前田 光俊 (18期)

岡弘 清孝 (18期)

丹野 滋夫 (20期)

辻 克治 (21期)

山根 真一 (23期)

栗山 和美 (24期)

小林 正行 (27期)

宮 健二 (校友会主任)

井上 保宏 (総務部長)

樋渡 俊光 (総務部長)

澤口 洋一 (事務長)

鈴木 貞雄 (教頭)

・16期

「同窓新報」編集委員会

委員長 荒井 伸夫 (20期)

委員 原 正男 (1期)

真田 治孝 (5期)

妻倉 由明 (16期)

高木 恒一 (16期)

日吉 明廣 (19期)

馬場 元司 (31期)

大澤美由紀 (48期)

石井 瑞希 (51期)

木村 紀子 (52期)

村 真理子 (53期)

幹事 (57期)

三 三四二名

志村 雄大 (A組)

飯高 北斗 (B組)

関口 優理 (B組)

市川 麻実 (C組)

降旗 彩乃 (D組)

小林 里美 (D組)

丹羽 賢人 (E組)

小松 未央 (F組)

小松 吾芸 (F組)

小林泰一郎 (G組)

橋本 悠介 (H組)

網代 桃子 (I組)

伊藤沙奈美 (I組)

伊波 朋哉 (J組)

二見 駿吾 (K組)

鈴木森太郎 (L組)

宮沢 新一 (29期)

野口 直正 (30期)

北見 英之 (32期)

松本 盛一 (33期)

田中 秀一 (34期)

相宮 潤 (35期)

石原 透 (36期)

川端 健介 (38期)

岡本 勝男 (39期)

羽場 敬仁 (40期)

山口 拓 (41期)

成田 義孝 (42期)

安仲 聡 (43期)

行廣 剛 (43期)

佐藤 剛 (44期)

塩津 順平 (46期)

井上 智晴 (47期)

菅谷 正和 (49期)

上原 圭太 (50期)

石井 瑞希 (51期)

村 真理子 (53期)

武島 実佳 (54期)

齋藤 典明 (55期)

太田 育都 (56期)

二杉 洋香 (57期)

会員だより

わの広場

北からの便り

十七期I組

石渡 進

桜前線の北上で全国的に春が報じられる今日この頃、お元氣のことと存じます。

さて、三十四年間の教職を辞して、北海道函館にほど近い国定公園大沼の近くに定住することとしました。この間、こどもたちと共に教職活動ができたのも皆様のおかげと感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。定年まであと四年でしたが義父母の介護をしたり、私自身の健康保持や北の大地でのアウトドアライフをしていく所存です。函館におこしの折は、おたち寄り下さい。お世話になった皆様へのご挨拶まで。



清涼山 心月院略縁起

私のお寺 ①

曹洞宗 清涼山・心月院

(兵庫県・三田市西山)

十六期I組 児島 正龍



小高い丘の竹林の中に、旧三田藩主九鬼家の菩提寺である曹洞宗心月院がある。道元開祖の永平寺(福井県)から派遣されて二十七年目の住職児島正龍さんは「縁が残った住民の心のよりどころ」との

思いで、寺を守り続けている。青年らとの交流を図るため野球チーム「西山ホープス」を結成したり、「健全で豊かな心を持つ子供を育てたい」と寺で学習塾を開いたりしている。一人で切り盛りしてきた塾の卒業生は約千五百人に上る。

住民との交流を、どのように発展させるのか……。住職の意気込みが伝わってきた。

天正十三年(一五八五)太閤秀吉が、有馬温泉に浴する時、新しく寢殿を建てたが有馬法印則頼の領主となった時、これを西山に移し僧舎を建て名づけて梅林寺と呼んだ。これが、今の心月院の旧跡である。爾来大凡五十年間住僧交代不詳。寛永十年(一六三三)鳥羽城主九鬼久隆公が、三田へ移封されてから右の寺を増築して、天翁山心月院と称し、鳥羽常安寺四世・覚雄是和尚を請して開山となす。この後、寛文五年(一六六五)に山号を、清涼山と改めて以後、領主は歴代の住僧を尊崇これに代依した。然るところ延宝六年(一六

文芸社より本を出版

二十期C組 鈴木 文彦

文芸社より本を出版する機会に恵まれました。顔に似合わないファンタジー小説です。

あとがきにも書きました。が、本の完成に四年も掛かってしまいました。途中、めげそうになったこともありましたが、今となればすべてがよい思い出です。

この小説の主人公「およねさん」は、母です。戦前の品川が舞台となるため、資料を集めるのは手間取ってしまいました。子供が読んでも楽しめるように、母には超能力少女になってもいいました。

内輪話を致しますと、この物語の構想を文芸社に持って行った時、「大変なスケールになってしまいますよ」と苦

笑されました。でも、「これが完成したら、すごいことになるかもしれないね。頑張ってください」と、半ばおだてられ、その気になってしまったのです。

「およねさん」は、六話完結となります。サブタイトルの「龍の伝説」が第一話なのですが、原稿用紙二千万に達し、とても一冊に収まりきることができませんでした。結局二冊で第一話となります。

もしも、この調子で執筆することができたら、六話×上・下巻×十二冊という物語になってしまいます。まるで夢のような話ですが、実現できたらいいなあ、と目を閉じてしまいます。



七九 山門のほか焼失、宝暦三年(一七五三)十三世智龍和尚総門再建、新たに観音三十三体を造り金毘羅堂が建つが、天明六年(一七八六)再び火災、同年十一月仮本堂・御霊屋が再建、十八世相芳和尚新たに庫院・方丈廻廊等を建てる。(一八三四〜七)十九世畫龍和尚諸堂を修繕大

蔵経を請し、新たに経蔵を建てる。(一九七六〜二〇〇〇)二十五世正龍和尚全建物を修復する。これが現在の建物である。 本尊 釈迦牟尼仏・文殊菩薩・普賢菩薩 境内地 一、八七六坪

でも、これが実現できなくても、一冊でも本にできたということは、本当に嬉しい限りです。表現力の乏しい所もありますが、一生懸命に書きました。どうかご覧下さい。

駒大高の卒業生として、恥じないように今後も頑張っていく所存です。 最後になりましたが、先生方はじめ皆様のご健康を心からお祈り申し上げます。

およねさん

龍の伝説 愛澤さとし

少女よねに降り注ぐ 数奇な運命。 今、未知の力に目覚めゆく!

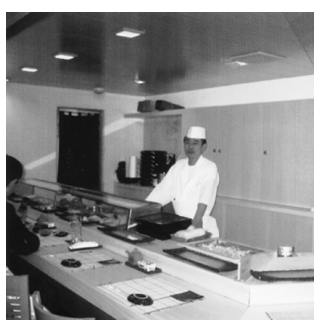
よねは、不思議な力を持っていた。それは、夢で未来を予知してしまうものだ。今までも数え切れないほど未来を言い当てていた。それは、自分のことだけではなく、家族、友人の未来までも予知していた。(本文より)

四六判・上製・440頁 定価1,995円(税込み)

文芸社 東京都新宿区新宿1-10-1 03-3369-2299 FAX 03-3369-3066 左記注文書にてお近くの書店でご注文下さい。Eブックサービス(03-3369-2299)携帯・PHSからは03-3817-0711への電話注文やインターネット(アマゾン"amazon.co.jp"等)からもご注文頂けます。

お店 拝見 縮 下川 政仁 二十期A組 在学中はソフトテニス部に所属し活躍する。インターハイ団体戦・都予選に優勝し本大会に出場した。 この部活動の経験が今日に生きているとの事。顧問の若月先生には大変お世話になった。

高校卒業後、修業三十年、川崎より移転して、現在、の場所に開店した。 食材のネタは旬の物しか使っていないで、本物の味覚を提供しているとのことである。 自慢の料理は「生イクラの醤油づけ」「アワビの酒蒸し」など。また丸秘の鰹出しで味付けをしている。 ◆営業時間 ランチ(千円より) 十一時三十分〜十三時三十分 夜 十七時〜二十二時まで 握り(三千五百円より) 散らし(五千五百円より) ◆駐車場あり(三台) ◆住所 世田谷区瀬田五二一九 リバーサイドエイト1A TEL 〇三・五四九二・五四四〇 FAX 〇三・五四九一・五四四五



修道館の地域開放

四十五期D組 横山 勇



ラブのご父母の方々も、喜んでいらした。また、柔道場の入り口付近には、綱（ロープ）があり、子どもたちは、道場に来るとすぐにそのロープに飛びつき、ターザンごっこをしたりして楽しそうに遊んでいます。ロープも柔道場に一つの楽しみとなっていて、楽しかったです。

練習は、道場が以前より広くなった分、密度の濃い練習をすることが出来るようになり、特になら、乱取り稽古などの、場所を広く取る練習では、以前の倍以上の稽古ができるようになり、その成果は早くも昨秋の世田谷区民体育大会等で発揮されています。

用賀柔道クラブは、世田谷区用賀中学校の武道室で週二回、練習を行っていましたが、昨年より水曜日のみ駒大高校の修道館柔道場で練習が行われるようになりました。柔道クラブがはじまって以来、世界チャンピオンの森脇先生をはじめ多くの指導陣のもと活動しています。今では、駒大高校柔道部顧問の鎌田先生・横山先生（平成七年度卒業生）がその指導のお手伝いをしており、活動時間は、午後の六時三十分より八時（退出時間を含む）までの約一時間半です。クラブ員は、ほとんどが小学生で地域の小学校に通っているようです。また、人数は少ないですが中学生も練習をしています。

駒大高校の柔道場は、約一〇〇畳あり、回りには板の間があるので、昔ながらの柔道場を思わせるような趣きがあります。修道館を使用できるようになり、子どもたちが生き生きと道場で練習をしているので、く

開催報告

と楽しいコンペができました。代表（平沢正二）

平成十八年

◇五十四期I組

（新羅朱美先生）

一月四日（水）渋谷

十六年度卒業のI組のクラス会を今回初めて行いました。卒業してから少人数で集まる機会は何度かありましたが、今回、先生も呼び、盛大に行うことができてとても楽しいクラス会となりました。又、東京を離れ沖縄でサッカーを頑張っているクラスメイトも帰ってきていて、貴重な一日となりました。またぜひ行いたいと思います。

報告（松尾友佳子）

◇三十一期C組

（宮 健二先生）

三月十九日（日）

茨城県行方郡麻生町

「セントラルGC」

生憎の小雨じりのまじりの天候でしたが、和気あいあい

◇三十六期G組

（浦 敏之先生）

四月十五日（土）

二子玉川「維新號」

◇三十四期K組

（井上保宏先生）

六月十日（土）

熱海「石庭」

◇五十期I組

（浜田敏明先生）

八月二十五日（金）

用賀「養老乃瀧」

◇五十四期A組

（浜田敏明先生）

八月二十五日（土）

用賀「和民」

◇三十一期C組

（宮 健二先生）

十月八日（日）

山梨県大月市

「花咲カントリー」

開催報告

◇バレーボール部
（戸田光信先生）
四月十五日（土）
新宿「センチュリーハイアット」
広谷五郎先生の退職を祝う会

平成十八年

◇宗内生・平成十四年度生

（鈴木純行先生）

四月二十四日（月）

用賀「和民」

この学年は結束力が強く、部長の一声があると「全員参加」となる。来年はいよいよ本山安居修行、大学最終学年にあたり、いま一度精力を再注入したい。

報告（高橋宏英）

◇宗内生（鈴木純行先生）

四月二十七日（木）

用賀「和民」

代表（加藤寛隆）

◇卓球部（横山 汪先生）

四月十六日（日）

母校「小体育館」・

用賀「村さ来」

代表（千谷真市）

◇ラグビー部

（玉置和夫先生）

二月十一日（日）

二子玉川「駒大・砦グラン

ド他

◇一・二・三位を獲得（昭和二十六年一月二十三日）

◇美術展

東京都私立中高協会美術展（日本橋三越）において、桜井務 東京都知事賞を受賞（書道）（昭和二十六年一月）

◇アロハシャツ禁止

アロハシャツ校内着用禁止・法式には学生服着用決定（昭和二十六年六月五日）一期卒業後

（注）当時ハワイアン音楽が全盛期で、確かにアロハシャツで通学していた生徒がいた

注釈 編集委員 原

◆卓球部

十一支部卓球体外個人戦の



サー元帥杯大会に出場成績不明（昭和二十五年九月八日）

◇陸上競技部

第四回十一支部連合大会ト

ラック競技決勝

100メートル優勝 石井・

2位 愛甲・400メートル

3位 石井・800メートル

3位 長岡・1500メートル

4位 菅野・800メートル

ルリレー優勝 石井、金沢、

石垣、愛甲（昭和二十五年十一月一日）

◆能力別学級編制

能力別学級編制について検討を始める（昭和十五年十

月）

一月十四日）同年十二月四日廃止決定

（注）この制度は一期生が二年進級の時に導入されたと思

います。木造校舎の廊下に全員の名前が成績順に書き出

され上位から順にABCの3クラスに分けられ自分がどの

クラスに分けられ自分がどのクラスになったか探して確認

したのを覚えていたと思いま

す。しかし廃止されたとは当時知られず三年進級時も

多少のクラス入れ替えはあつ

たかも知れませんが、そのま

（公民科非常勤講師）

校友会活動報告

◆関東大会・出場
○ソフトテニス部
団体

個人・初優勝
三年B組 木虎 徹君
三年L組 秋元祐介君



ソフトテニス部

バスケットボール部・女子（関東・初出場）



六月一日（金）～三日（日）
千葉県白子町「白子サニーコート」

- ◆関東大会・初出場
- バスケットボール部・女子
六月八日（金）～十日（日）
山梨県富士吉田市「富士吉田市営鐘山スポーツセンター」
 - 剣道部
男子団体
六月一日（金）～三日（日）
千葉県千葉市「千葉ポートアリーナ」
 - 陸上競技部
400m
三年K組 安村頼宣君
やり投げ
二年L組 飯塚篤之君
六月十五日（金）～十八日（日）
山梨県「小瀬スポーツ公園陸上競技場」
 - ◆インターハイ・出場
○ソフトテニス部
団体
 - 個人
三年B組 木虎 徹君
三年L組 秋元祐介君
七月二十八日（土）～三十一日（火）
佐賀県嬉野市「みゆき公園テニスコート他」
 - ◆国民体育大会・出場
○ソフトテニス部
三年B組 木虎 徹君
三年L組 秋元祐介君
九月三十日（日）～十月三日（水）
秋田県大館市「高館テニスコート」
 - ◆全日本高等学校吹奏楽大会・出場
○吹奏楽部
十一月十一日（日）
神奈川県横浜市の「パシフィコ横浜国立大ホール」
連盟理事長賞受賞
（次年度出場権獲得）

華道同好会

校友会だより

顧問 渡我部 由紀

華道同好会は古流正華道の影山千陽先生をお招きして、週一回お稽古をしています。平成十七年に発足した当初は、一人の部員でした。そして興味のある友達を連れてきて、そしてまたその友達が来て、といううちに、現在では三年生五人、二年生三人、一年生三人で楽しくアットホームに活動しています。毎週、

季節ごとにちがうお花を楽しむながらお稽古しています。大きなこととしてみたい、ということ、入学式・卒業式に壇上に飾る大きな作品にチャレンジしました。また花まつりの花御堂は感覚をつかむまでなかなか苦労しましたが、色々な方からお褒めの言葉をいただいた部員たちも達成感を味わうことが出来ました。一番のイベントは何といっても胸大高祭です。日頃のお稽古の成果を存分に発揮して、全員で大きな共同作品に取り組みます。ぜひ文化祭にお越しの際は玄関ロビーに展示しておりますのでご覧ください。生け花だけでなく、フラワーアレンジメントや法要のお花の生け替えなどにも取り組み、部昇格を目標に部員一同頑張っています。



駒澤大学に新学部創設

経済学部 現代応用経済学科

2007年4月開設

モデルなき課題を抱えた現代の経済を学び、革新的な解決法を創造する「経済の開拓者」を育成します。

編集局より

会員の皆様
投稿をお待ち
します

今「団塊世代の定年」で世間が大騒ぎしている。定年という行為は毎年あったろうが、この世代の先輩たちは戦後の寵児。今まで組織を引っ張ってきたが、定年という節目で組織から切り離される。これからどうするか、それをどう受けとめるか、いろいろ動き出している。この前、園児の送迎バスで見た光景が微笑ましい。乗車した園児が、バスの中から手を振っている。送ってもらった母親にも、道行く誰にもその手は止まらない。そうすると大人は手を振り返してします。次の世代を担う君達に。

定年になっても元気な先輩と、将来に夢がある幼児たち。「いくらやっても将来があるわけじゃない」とか、いじめとか殺伐とした出来事が山と起きている現実社会。しかし、日常見る光景はそんなものはない。淡々と流れている。夢と好奇心がその流れを太くしている。見方を変えて「素直でいたい。だけれども、君自身の心構えが身の回りの雰囲気や出来事事に気付けたい。そうすれば別の流れが見えてくる。（あらい）

